1日1枚文集「登っこ」の思い出

『吉野小学校・登小学校廃校に当たって 思いで」 掲載

といえば「登っ子」のことです。 数のために忙しかった学芸会や運動会、 い出は?と聞かれても、 すぐには答えられないほどたくさんあります。 スキーやプールそして卓球。 中でも一番の思い出

モチロン私も…。 父さんたちも毎日楽しみにしてくれるようになり、お母さんやお父さん方が時々「登っ子」 っ子」の劇をしました。何しろ今までのことを書いたものなので、みんな楽しそうでした、 のページに原稿を書いてくれたりしました。その間にも「登っ子」がへき地教育新聞 べただけの詩も、だんだん20号、 っ子」ができあがった。第1号が1969年(昭和4年)9月1日。最初はただ言葉を並 :全国へき地教育研究連盟編の新聞)に載ったりしました。そうそう、 3年生で詩や作文なんてまだ良く分からなかった頃、中村先生の提案で1日1枚文集「登 30号と続けるうちに何とか詩らしくなっていきました。 学芸会に特別「登 (注

ようやく20号になって、みんなでジンギスカンを囲んでお祝いをしたのです。(略)ラス(教室)が変わったりして、前のように活気がなくなってきたようだった。それでも 10号になったのが嬉しい。でも10号を過ぎてからだんだんと書くペースが遅くなり、たケーキを食べたのです。写真を撮ってみんなで食べたケーキはおいしかったし、何 達しました。お祝いは、みんなで学校に集まり、「登っ子」のために特別に作ってもらっ たのです。(みんなすごいファイト!)そして、1月8日にとうとう「登っ子」が10号に なったことがある。 枚文集も1日おきになったり、 そしてもうすぐ冬休みという時に、冬休みでも「登っ子」を書き続けるか休むか問題に 「登っ子」は私たちに「何でもやればできるんだ」ということを教えてくれました。 結局、 写真を撮ってみんなで食べたケーキはおいしかったし、何より みんな「冬休みに何回か学校に来て書こう」ということになっ 3日に1枚になったりした。 私たちが4年生になってク (略) 1

*残念ながら常呂図書館には、「登っ子」はありません。